

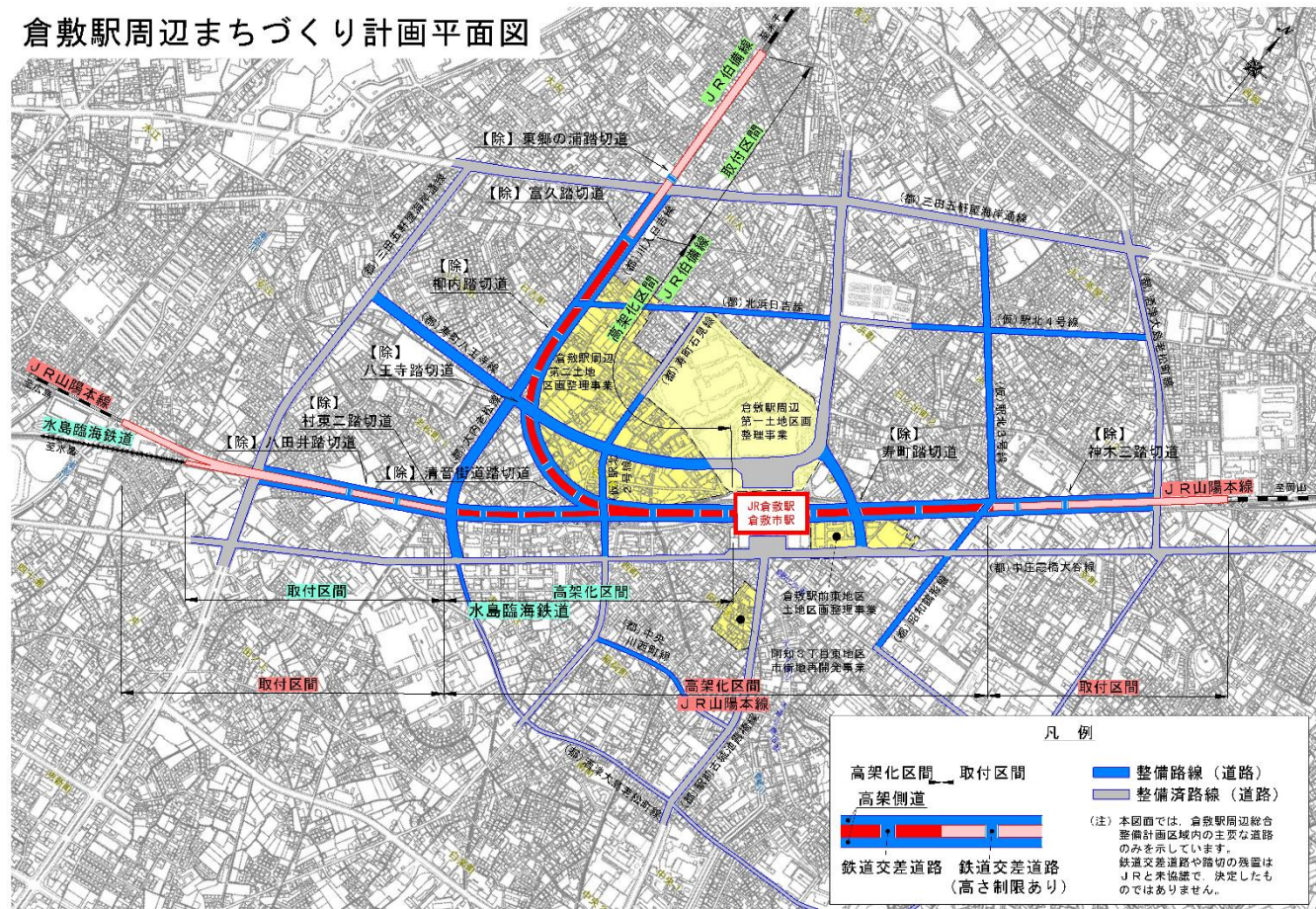
J R山陽本線等倉敷駅付近連続立体交差事業

平成 30 年 12 月 倉敷市作成

倉敷駅周辺の中心市街地を通る J R山陽本線・伯備線・水島臨海鉄道を連続して高架化することにより、踏切除却や道路との立体交差を一挙に実現し、都市交通の円滑化を図るとともに、鉄道によって分断されている市街地の一体化を促進する事業です。

- 【事業の概要】 ※現在事業計画区間の見直し等、費用の縮減を検討しています
- 事業主体 岡山県
- 事業計画区間 全体計画区間延長 L = 約 7.1km
- J R山陽本線 約 3.2km (大島～四十瀬)
 - J R伯備線 約 2.2km (阿知1丁目～酒津)
 - 水島臨海鉄道 約 1.7km (阿知1丁目～安江)
- 概算事業費 609億円
- 負担額及び負担割合 鉄道事業者：43億円(7%)，国：312億円(51%)
 県：127億円(21%)，市：127億円(21%)

倉敷駅周辺まちづくり計画平面図



都市機能が集積しバリアフリーが確保された災害に強いまちづくり



- 踏切が除却され、機能的な放射環状道路により、渋滞混雑を大きく緩和します
- 鉄道南北をつなぐ誰もが快適に移動できる動線を確保します
- 多数のフラットな避難経路の確保により安全安心なまちを形成します

- バリアフリーで乗り継ぎが便利な駅前広場が形成できます
- 高架化を契機に周辺開発が誘導され都市機能が集積されます
- ゆったりとした賑わい広場が形成できます



- 複数の魅力ある動線により回遊を促進し、まちに賑わいを創出できます
- 高架下空間の活用により都市機能が集積されます
- 鉄道は専用的高架空間を走行するため、踏切事故や災害時の踏切遮断を解消し安全安心なまちを形成します

『連続立体交差事業は目指すまちの姿を効果的に実現できます』